

スクールシリーズは2018年、発売40年を迎えました。

1978年に、水路長25mの競技訓練用プールでは初めて工業製品として開発されたスクールシリーズは、以後、40年にわたってヤマハFRPプール技術の根幹を担ってきました。時代のニーズに応えるバリエーションの展開や、新しい機能の開発など、たゆまぬ努力を続けています。FRP素材の優位性、そして機能と安全を迫る設計思想が市場の大きな信頼を得て、スクールシリーズは、納入実績が6,200基を超える世界に類をみないベストセラープールとなりました。



1978年
磐田市立東部小学校へ納入された第一号機は、今も活躍し続けています。



2018年 佐野中学校
地域の人たちにも開放される学校プール。

1998年 安曇小中学校
幅広い年代の子どもたちが使うため段差プールが採用されました。



2016年 福岡県消防学校
水難救助訓練を行う大水深プール。
水深1.5m~5.0m

営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 プール事業推進部営業部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居3078

東京営業所

販売課 TEL.03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウイングビル3F

東北販売課 TEL.022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル3F

中部販売課 TEL.052-218-4366
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見4F

西日本営業所

販売課 TEL.06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F

九州営業所

販売課 TEL.092-472-7815
〒812-0008 福岡県福岡市博多区東光2-6-6 第3フジクラビル3F

www.yamaha-motor.co.jp/



210076



最新 公共温水プール情報

CONTENTS

- 1 紀北健康センター(紀北町)
- 5 長崎市民神の島プール(長崎市)
- 7 二本松しんきん城山プール(二本松市)
- 10 サンマリーンながの(長野市)

紀北健康センター — 津波避難施設の役割を持つプール施設

長崎市民神の島プール — 地域に密着した市民プールの建て替え

二本松しんきん城山プール — 震災復興のシンボル

サンマリーンながの — 大型温水プールの復活



世界遺産「熊野古道」で知られる三重県紀北町は、大台山系と熊野灘に挟まれた自然豊かな町です。また、年間降雨量が最も多い地帯の一つに位置しています。

平成16年9月。この地域は大きな災害を経験しました。台風21号と秋雨前線の影響により、海山町(当時)では、最大雨量が154mm/hという記録的な大雨が降り、船津川の堤防を越える洪水で、この地域のほぼ全域が浸水しました。この災害の教訓から、災害発生に対する備えは、より重要な課題となり、官民が連携して防災に取り組んできました。

紀北健康センターは、「地域の健康増進とスポーツ振興」、そして「防災」という、二つの明確な目的を実現させる新しい考え方の施設と言えるでしょう。

待ち望まれた温水プール

紀北町教育委員会 生涯学習課スポーツ振興係
奥村 京英 係長にお話を伺いました。



「この地域は水泳が盛なんです。50年の歴史がある海山水泳協会を中心に、子どもたちを水難から守るため水泳指導が続けられてきました。競技会でも良い成績を残しています。ただ、年間を通して使える公共の温水プールがなく、潮南(ちょうなん)中学校の屋外プールを簡易的な温水プールに改造して20年間使ってきました。子どもたちの水泳教室や部活動、成人水泳など、みんなで使うためにはやはり時間やスペースの問題など様々な制約ができています。隣の尾鷲市を含めてこの地域には温水プールがないことから、町民のみなさんの強い要望に応えるためにもこのプールが計画されました。」(奥村さん)



新しい温水プール施設の役割

健康増進とスポーツ振興の拠点

「町としては大きな投資ですし運営費負担も大変ですが、長期的には、みんなが元気で笑顔になって、さらに医療費が削減できれば投資効果が生まれると考えています。近隣自治体からも多くの人に利用してもらえると嬉しいですね。」(奥村さん)

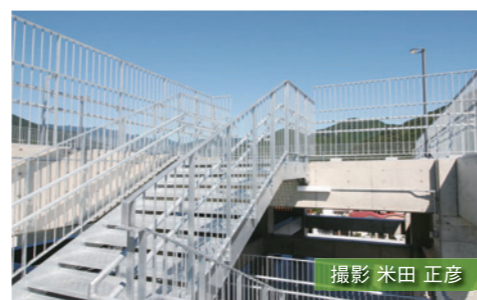
津波避難施設

「南海トラフ地震が発生した際の津波災害における被害想定調査結果」を基にしたハザードマップによると、この地域では2m~5mの津波による浸水が想定されています。また、浸水深30cmの到達時間から15分以内に避難しなければなりません。施設正面に避難タワーへ続く階段が2方向から設けられ、スムーズに避難階へ登ることができます。

「もう一つの大きな役割は津波対策です。役場や潮南中学校、町民センターなど、既存の避難場所は全て海沿いにあるため、この周辺の人たちは、海に向かって避難することになってしまいます。山側へ向かうには、線路(紀勢本線)や国道(42号線)を超えなければなりません。地域の人が一時的に避難できるタワーが必要でした。」(奥村さん)



撮影 米田 正彦
避難デッキ



撮影 米田 正彦
避難階段

健康づくりから、選手の競技力向上まで対応できるプール



25mプール

25m×15m 水深1.2m
7コース(コース幅2m)
水面積 375㎡
容量 450㎡



「最も悩んだのは水深です。選手の競技力向上のために本格的なスタート台を設置したいと考えていました。公式には水深1.35mの深いプールが必要ですが、それでは一般の人が利用しにくくなります。そこで、1.2mの水深にして、2レーンは歩行用のスリップレスフロア(ヤマハアクウォーク)にしました。」(奥村さん)



歩行専用プール 18m×5m 水深1.05m
水面積 79㎡
容量 82㎡

「泳ぐ人と歩く人では、水流や波の動きが変わってきます。そこで水中歩行と運動専用のプールが必要だと考えました。水深は1.05m。身長の高い女性でも無理せず運動ができます。」

「プールの素材については、多くの事例を見ました。FRP、ステンレス、それぞれ特長があると思います。FRPの一番の良さは、メンテナンスコストが小さいこと。掃除がしやすく清潔感があることですね。」(奥村さん)

子どもから高齢者まで、みんなが楽しめる施設をめざして

運営責任者の濱田センター長に伺いました。

「健康寿命の延伸と子どもたちの健全な育成は私たちの重要な仕事です。高齢者は健康で長く楽しい生活を続けられるように、また、子どもを水の事故から守る、そのような活動を地域と一緒に進めていきたいと思っています。」(濱田さん)

温水プールだけではなく、本格的なフィットネス機器や多目的スタジオなど最新の設備が備えられ、利用者個人にあった効率のよい運動プログラムを提供できるシステムが採用されています。

「効果がわかりやすいので、目的を見つけて継続して通ってもらえるといいですね。ヨガや、太極拳、フラダンスなど地元のインストラクターの方と協力した教室も開催されます。軽い運動から本格的なトレーニングまで幅広く対応することができます。」(濱田さん)

オープンに向けてスタッフの研修が熱心に行われていました。
写真 右端: 濱田 哲センター長



力強く、安定感のあるファザードを持つ建物は、まさに町の災害に対する備えのシンボルのようです。「災害時には、ここへ避難できる。」という安心感を人々に与えます。コンクリート打ち放しの強靱なフレームと木製のルーバーの組み合わせは、力強さの中に、優しさ、柔らかさを感じさせます。



撮影 米田 正彦

異なった二つの機能の融合

株式会社 東畑建築事務所 柱 健太郎氏にお話を伺いました。

「『健康増進、スポーツ』と『防災』という2つの異なる機能を持つ建物です。この2つのテーマをどのように融合させ、デザインしていくのかはとても難しい課題でした。防災的な要件をクリアするためにスキップフロアを採用しました。構造的には難しい設計でしたが、高低差ができるので事務室からプール全体を見渡せたり、更衣室からプールへのスロープを乾燥エリアに使えたりメリットも生まれ、それぞれの機能を持つ空間が、ゆるやかな繋がりを持つようになりました。」(柱さん)

▶ 力強い外観とは対照的に、室内へ入ると木の香りがする明るく優しい空間です。

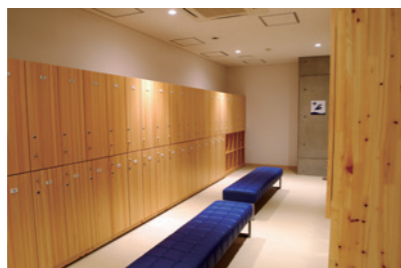
「地元の特産である『尾鷲ヒノキ』を多く使っています。外壁のルーバーも加圧防腐処理をしたヒノキです。ロビーからはジムやスタジオ活動の様子が見えるので、運動をしようという気持ちが促進されます。プール室の壁面にもヒノキを使っています。木材にとっては厳しい環境ですが、他のプール施設にはない暖かい空間をつくることができました。FRPも、木材と同じようにやわらかな優しい素材です。ヤマハFRPプールには工場製品として信頼性を感じています。」(柱さん)



東畑建築事務所 柱 健太郎氏



ロビー

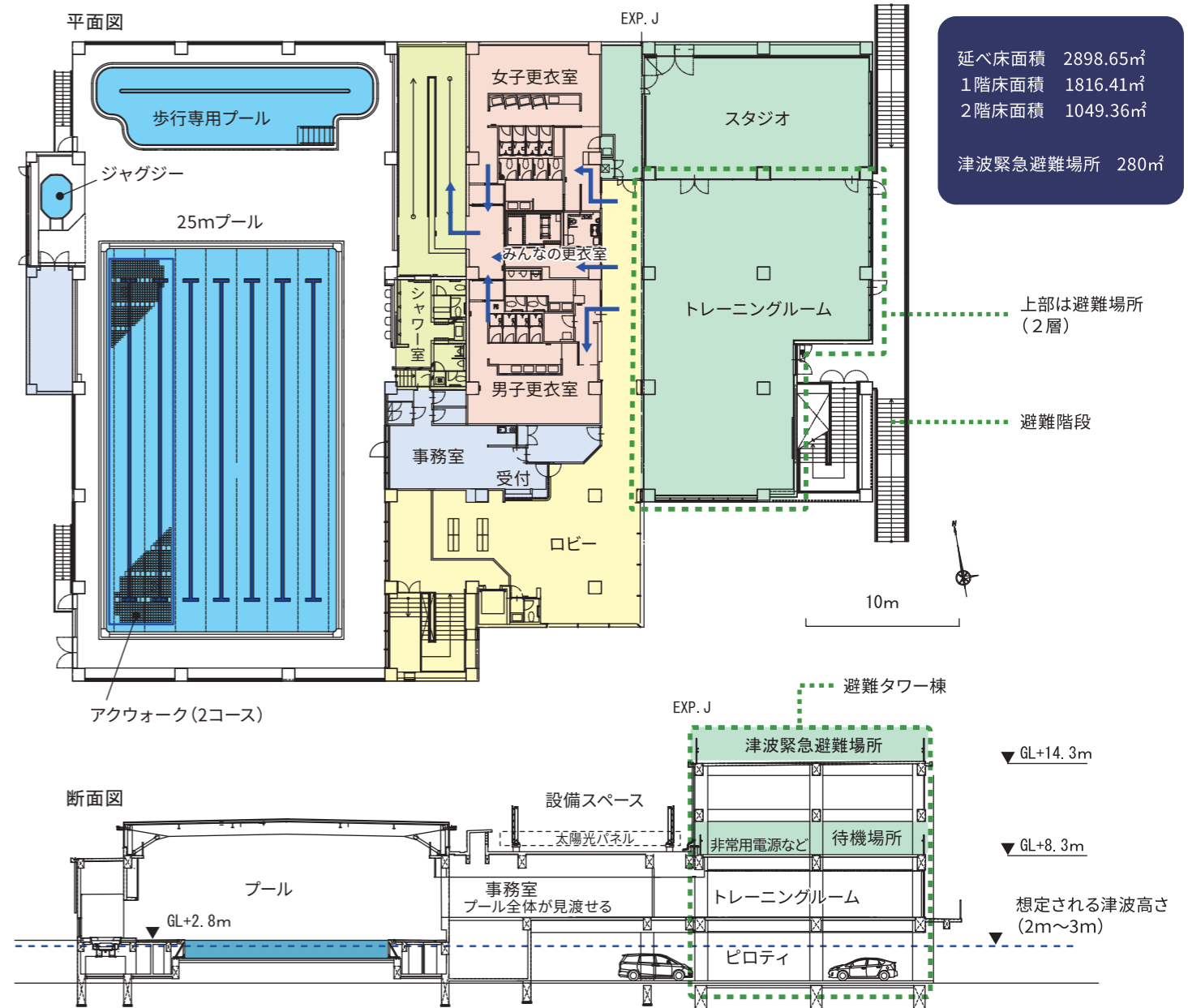


更衣室



プール室

プール室:空の雲のように天井から吊り張られた幕の群れは、反響を防ぐ効果とともに、空間に躍動感を与えます。縦方向に貼られたヒノキの壁面やプール水面とともに、空、森、海という紀北町の豊かな自然を感じさせます。



避難タワー棟はプール棟から構造的に分離され、より強固な建物となっています。また、避難タワー棟の1階はピロティにして津波の大きな力を受けにくい設計です。津波緊急避難場所は地域の人、560名が避難できる面積が確保され、待機場所には備蓄倉庫と24時間使用できる非常電源が備わっています。



撮影 米田 正彦



撮影 米田 正彦

東日本大震災から7年。子どもたちが安心して遊んだり運動ができる施設を早く造りたい。そんな思いが込められた市民プールが2018年の春にオープン1年目を迎えました。夏には多くの家族が訪れ、レジャープールとして楽しみ、また、年間を通して健康増進のために通う地域の人々、それぞれの笑顔が溢れるプールになりました。



流水プール 水深1.0m 水面積300㎡

水泳、水中運動の効果と楽しさを知ってもらう

プール監視責任者 岡田 凌さんにお話を伺いました。

▶ レジャーや健康増進、水泳の練習など様々な目的で使われるプールです。運営上難しいところは？
「遊びたい方と、泳いだり運動をしたい方が一緒になってしまうといろいろと不都合が起きます。流水プールでは流れに逆らって歩く人や遊ぶ人達の波、ビーチボールなどが、泳ぐ方のじゃまになったりすることもあります。注意することではなく、声をかけてみんなが気持ち良く使えるように心がけています。」(岡田さん)

▶ オープンから1年が経過し、健康のために日常的に通われる方も順調に増えています。
「はじめは、水中での動きがわからず、なかなか慣れなかったお客様も、定期券を買って通ってくださるようになりました。肩・腰・膝痛改善教室に通う年配の方の中には、「歩けるようになった」、「杖を使わなくなった」など、お客様自身が効果を感じられ、楽しくて仕方がないと言ってくださいます。我々から見ても身体や体幹がしっかりしてきたと思える方がたくさんいます。」(岡田さん)

「教室はスイミングクラブほど厳しくはないので、楽しみながら水に慣れていくことを心がけています。選手を育成しているわけではないので、このステップができたら次に進むというより、とりあえず自由に好きな種目を泳げて、安全にプールでのレジャーを楽しめることを一番に考えています。」(岡田さん)

▶ 2年目にむけての方針を聞かせてください。

「この1年で、お客様自身が健康に対する意識づけができてきたように思っています。年配の方に通っていただいて、歩きやすくなった、お出かけが楽しくなったという声を聞くことができました。引き続き介護予防教室など、地域に貢献できる施設運営に取り組んでいきます。また、この地域は遊泳できる場所が少ないので、小学生の教室では水を怖いと思わずに楽しさを知っていただきたいですね。夏は家族で、おじいちゃん、おばあちゃん、孫、どの年代にも楽しんでいただけたらと思います。」(岡田さん)



[指定管理者]
(株)フクシ・エンタープライズ
岡田 凌さん



市民の健康づくりのきっかけに

二本松市教育委員会
生涯学習課
篠塚 浩 課長
渡邊 香 係長
にお話を伺いました。

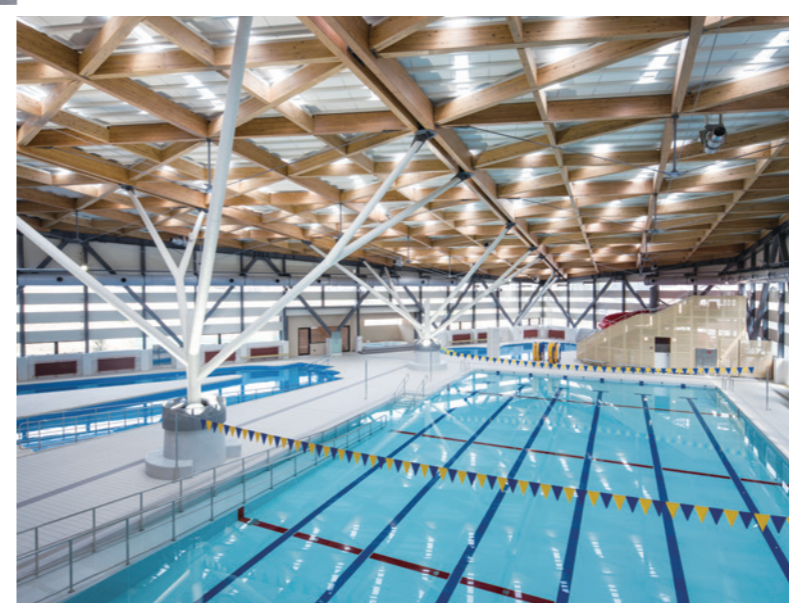
「7月の海の日連休には入場者数が1,300人を超えました。この時期(2月)でも平日に150人から200人、土曜、日曜には250人から300人の利用があります。きれいな施設やプールが人気で、市外からの利用者も多く、当初目標としていた集客数を半年で達成することができました。市が主催する介護予防教室はとても人気で、定員の5倍の応募があり抽選になったほどです。他にも、多目的室を使った体操教室や無料の健康教室(水中ウォーキング、お気軽アクアビクスなど)を開催しています。1年を通じて利用していただき、市民の健康づくりのきっかけとなれる施設づくりを進めています。」



プール全体が見渡せる白ビー



多目的室



25mプールは、最新のヤマハFRPフラットプールが採用されました。床は、スリップレスフロア「アクウォーク」です。入水スロープも設置され、水泳、水中運動、レジャーと多目的に使われています。

25mプール
25m×13.5m 水深1.1m
6コース
水面積345㎡



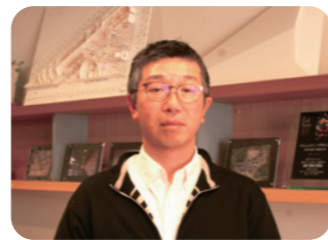
滑走路長33mの本格的なウォーターライダーが設置されています。着水プールと一体(安全フェンスで仕切られている)の幼児プールには、子ども用の滑り台もあります。

着水プール
水深0.9m 水面積36㎡
幼児プール
水深0.5m 水面積56㎡

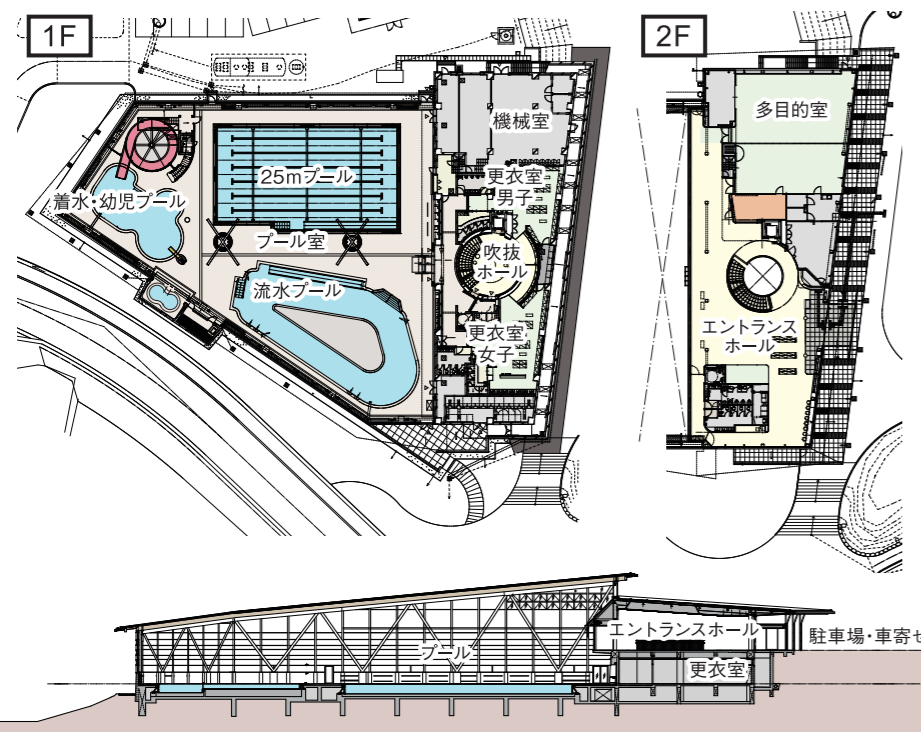


「二本松城跡」をイメージしたデザインは復興・健康のシンボルに

「東日本大震災による放射能の影響により子どもたちの屋外活動も制限されている状況で、できるだけ早く市民に安心と安全、そして、健康作りの場を届けようという思いで、この新しい温水プールが計画されました。市民のみなさんが大事にされている、「二本松城跡地」をイメージするとともに、敷地の高低差を最大限活かして、周辺環境（歴史景観地区に隣接）に調和した設計を行いました。また、全国的にも例の少ない「耐火性能検証法」により、技術的基準の適合を行うことで、プール空間の屋根梁の木造化を実現し、ダイナミックな空間構成の中にも、木の温かみを感じて人々の活動があふれ出すような、居心地の良い場所を作ることができました。」(江田さん)



関・空間設計 江田 紳輔氏



十分な広さのエントランスホールからはプール室全体を見渡すことができます。プールに入らないおじいちゃん、おばあちゃんや、赤ちゃんのいるお母さんもこの場所から子どもたちの様子を見ることができます。複雑になりがちなウェットゾーンとドライゾーンの動線は、高低差を利用した中央部の吹き抜けホールを設けることで、シンプルでわかりやすくなっています。入退場者が集中する夏のレジャープールシーズンにも、エントランスから更衣室までいくつかの十分な滞留スペースが設けられ混雑を回避することができます。

市民に親しまれた大型レジャープールが生まれ変わる

「海をもたない長野に太陽の輝く海を」の思いを込めて、1985年10月にオープンした「サンマリーンながの」が建て替えのため閉館したのは、2014年の3月31日でした。開館から28年間、延べ500万人を超える人々が利用しました。そして、2018年3月待望の新しい健康・レジャー施設がふたたび「サンマリーンながの」としてオープンしました。

